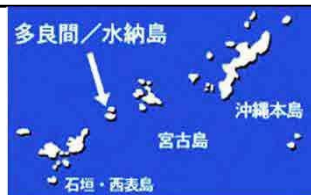


経営体の概要

- ・所在地:沖縄県多良間村
- ・経営体名:合同会社 湧川畜産
- ・飼養頭数:繁殖牛195頭、子牛150頭
- ・飼養形態:肉用牛繁殖経営

放牧地60ha、採草地27ha、妊娠牛と子牛は舎飼い

- ・労働力:本人、母親、姉妹2人の計4人（令和6年5月現在）



導入経緯

- 幼少の頃、両親が放牧地で妊娠牛を見つけて追いかける姿を見て、牛飼いはきつと感じたことや、母親との2名体制による労働力不足を補いたいと考えたのが省力化に取り組んだきっかけ。
- そこで、子牛の哺乳作業や妊娠牛の分娩管理の省力化を図ることを目的に、平成27年度に哺乳ロボット、平成28年度にドローンを導入した。

導入技術

・哺乳ロボット（(株)ロールクリート製）

（代用乳による哺乳作業を自動化し、子牛を群で管理。各個体に合わせた給与量や給与回数を設定することで、個体毎に適切な哺育管理が可能。）

・ドローン（DJI製）

（ドローンから送信される映像をコントローラーのパネルで確認しながら、放牧中の妊娠牛の分娩兆候の把握や牛舎への追い込みが可能。）

①哺乳ロボットによる
哺乳作業の自動化②ドローンから撮影した
放牧地の風景

取組の特徴・効果

- 平成27年度に、畜産収益力強化緊急支援事業（農林水産省）により、哺乳ロボットを導入。（事業費340万円、国費170万円）
- 平成28年度に、自己資金でドローンを導入。（導入経費15万円）
- 哺乳ロボット及びドローンの活用により、多頭数の牛を効率よく管理することが可能となり、作業の省力化が図られたことで、朝夕の農作業以外の自由な時間を創出し、「島の生活を満喫しながら牛を飼う」という自身が目指すライフスタイルを実現。
- 哺乳量及び哺乳回数の調整による発育向上や、細かな分娩兆候の監視による事故防止を実現。
- 今後は、島で育てた牛を島で食べることが出来る環境整備（飲食店等）やキャトルステーション等の整備による作業の外部化に地域全体で取り組むことで、畜産振興を通じた島の活性化を図りたいとの意向。